



「むごい教育」とは…

校長 徳永 寛隆

今年の大河ドラマは「どうする家康」。誰もが知る徳川家康が描かれています。襲いかかる危機を決断と運で乗り越えていく展開が楽しみで、毎週楽しみに視聴しています。

さて、徳川家康の父は、三河（現在の愛知県）という小さな国を治める武将でした。三河は、織田や今川という大きな国に挟まれて、とても厳しい状況に置かれていました。そこで、家康の父は、竹千代（家康の子供の頃の名前）を今川義元のもとに人質として差し出し、逆らう気のないことを伝えました。

しかし、竹千代を人質にした今川義元は、一目見てその素質を見抜き、このまま成長すれば将来、必ず立派な武将に成長して、自分をおびやかす存在になるだろうと予感します。そこで家来に「竹千代には、むごい教育をせよ。」と命じました。

数日後、義元は家来に「むごい教育をしているか？」と尋ねます。家来は、自信をもって次のように答えました。

はい、「むごい教育」をしています。朝は早くから起こして、水練（水泳）をさせ、食事は三食とも粗末なものを食べさせています。昼は剣術や馬術に励ませ、夜は学問と休むヒマもなく厳しく教育しています。これほどの「むごい教育」はないと思われま

す。これを聞いた義元は「馬鹿者！」と激怒します。そして、このように言いました。

それは「むごい教育」とは言わん！竹千代には、贅沢な食事を与え、朝から晩まで美味しいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないよう暖かくしてやれ。武術や学問が嫌だというなら、無理にやらせるな。本人の望むとおりに、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ。

家来が驚き、「それは、むごい教育ではなく、楽な教育ではありませんか？」と尋ねると、義元はこう答えました。

そのようにすれば、たいていの人間はダメになる！

義元は、これから武士として生きていく竹千代の将来を恐れ、わがままを許して楽をさせることで、「辛いことにすぐに弱音を吐き、気力のない」骨抜きのだめ人間にしようとしてしました。義元のいう「むごい教育」とは、「厳しく教育すること」ではなく、必要以上に「甘やかすこと」だったのです。

現代は物にあふれ、便利なことがどんどん増え、義元流の「むごい教育」を行うための条件が見事に揃っている環境だと言えます。子供たちの心の様子をしっかりと捉えながら、時には厳しく、時には丁寧に導いていくことが、私たち大人に求められているのではないでしょうか。楽しいことだけでなく、何かに挑戦し、苦しくても継続することで達成感や充実感を味わえるような経験が子供たちにとって身も心も大きく成長するきっかけになるかもしれません。令和版「むごい教育」にならないようにしていきましょう。



